

技術広報委員会委員殿

一般社団法人
日本グラウンドマンホール工業会
事務局 大石 直豪

第21回 技術広報委員会議事録

1. 開催日時 2021年10月13日(水) 15時00分～16時40分
2. 開催方法 WEB会議
3. 参加者 (敬称略)
- | | |
|------|---------|
| 委員長 | 広 滝 隆 行 |
| 副委員長 | 岩 上 智 一 |
| 委 員 | 清 水 壱 浩 |
| 同 | 加 藤 好 広 |
| 同 | 荒 木 勇 輝 |
| 同 | 森 本 雅 樹 |
| 同 | 松 村 孝 |
| 同 | 松 島 誠 二 |
| 同 | 石 田 康 平 |
| 同 | 竹 中 史 朗 |
| 事務局 | 大 石 直 豪 |
| 欠 席 | 鬼 頭 賢 吾 |
| 同 | 山 下 俊 哉 |

議事経過

初めに事務局より開催宣言の後、広滝委員長から、今回の委員会は当初、大阪市での資器材研修会に合わせて大阪で開催できればと予定を組んでいたが、緊急事態宣言解除直後ではしばらくは慎重な行動をというガイドも出ているため、WEB開催とした。

残念ながら1年以上も委員各位が直接対話できる機会を設けられてなく、コロナ後の行動様式なども議論されているので、次回以降は状況を見ながら直接対話できる機会を検討したい。

ただ、コロナ禍ではあるが下水道事業は着々と進展しており、8月末に発表された汚水処理人口普及率では、92.1%と92%の大台を越えて、未普及人口は1,000万人を切った。

また9月には下水道協会が、「下水道台帳管理システム標準仕様(案)・導入の手引き」において、維持管理情報の追加方法などを充実させてVer. 5を発刊した。

工業会および当委員会としても、維持管理時代において対外的に活発に動ける状況になる時期に備え、本日議論頂く工業会HPなどの充実、維持管理と適材適所の更新に寄与する防食性能の規格への掲載などを進めていきたいと思うので、WEB形式ではあるものの活発な議論をお願いしたい。との挨拶があり、その後審議に入った。

第1号議案：令和3年度上期活動報告について（理事会報告内容の共有）

事務局より議案書に基づき、9月に開催された理事会へ報告した、当委員会の上期活動について、詳細な説明があった。

その後、広滝委員長より活動計画の各項目について補足説明があった。

1. 資器材研修会の対応については、屋内研修で使用しているPPTの内容が陳腐化した為、GM維持管理推進委員会で活動している内容と連動させた内容に更新する。
2. G-4規格改正活動については、改正方針を決めた内容について下水協へ理解を深めて頂く活動を行い、並行して分科会で先行して事前検証試験を行っている。
3. 新HPについて、リリース後のアクセスなどの閲覧状況を後ほどの議案で詳細を報告する。リーフレットについても情報が古いため刷新する準備を進めたい。

その後、質問、確認等を募ったが特になく、第1号議案を終えた。

第2号議案：日本下水道協会「JSWAS G-4」規格改正活動の共有について

石田委員より、G-4規格改正への活動状況について前回説明したパワーポイントデータを画面共有し前回までの振返りを行い、続いて議案書に基づいて現在の活動状況について詳細な説明があった。

その後、分科会3社で検証した事前の防食性能評価結果について報告と解説があった。性能評価方法で蝶番部品とテストピースで検証を行った結果、蝶番部品では性能評価結果の偏差が大きいため、共通の試験治具を用いてテストピースにキズを入れて試験結果の偏差が小さくなる方法を選択する方針で進めるとの説明があった。

この事前検証結果を下水協へ報告し理解を得られた。

防食性能については付加性能的な位置付けであることから附属書への掲載を打診して理解を頂いた。

また、改正時期については、年度内の改正は難しいとの下水協の見解から次年度6月末までの改正で進めることで合意頂いた。

尚、実務委員会である鉄系製品小委員会には当工業会から参画を求められている為、別途協議をお願いしたいと説明があった。

その後、質問・意見を募ったところ以下の質問があった。

- ・規格調査委員会で検討される段階で改正規格案を示すのか、小委員会で検討される段階で示していくのかを知りたい。
これについて、委員長より以下の回答があった。
規格調査委員会に提示する資料の構成は、下水協より提示受けることとしているが、規格調査委員会では改正の必要性や概要等を理解頂く場であるため、改正規格案の具体的な文言までは必要としないと伺っている。しかし、改正規格案の作成は並行して作業を進めたい。

以上で第2号議案を終えた。

第3号議案：新HPの閲覧状況と課題について

事務局より、議案書に基づき7月1日にリリースし3ヶ月が経過した新たなホームページの閲覧状況について詳細な説明があった。

その後、質問・意見を募ったところ以下の意見と質問があった。

- ・PV数については、もう少し多く閲覧頂いているという認識だった。
⇒コンテンツを見易く整理した効果で、目的を持った閲覧者が知りたい情報に直ぐにアクセスできるためPV数が少なくなった傾向があるものと思われる。
- ・閲覧者の性別・年齢構成が判るのは何故か。
⇒閲覧者の検索傾向等のログからAIなどにより年齢などが割り出されてデータ分析された結果が示されている。
- ・アクセス数をカウントされる定義はどのようになっているのか。
⇒データ分析システムの設定により、同一閲覧者が設定した期間中に複数回アクセスしても、同一人物と判断されればカウントは1にしかならない「ユニークユーザー」と、同一人物が複数回アクセスしても複数人とカウントする「訪問者数」とがある。

以上の経過を経て、事務局から委員各位へ所属社内の研修や活動ツールとして当HPを活用頂くように要請があり、第3号議案を終えた。

その他 情報交換

- ・臨時総会が中止となったことを共有。
- ・「下水道台帳管理システム標準仕様(案)・導入の手引き」Ver.5 発刊を共有。
- ・GKP広報大賞へ「マンガ広報誌」をエントリーすることと、GM維持管理推進委員会が第2弾を年度内に発刊し、次年度第3弾を発刊することを共有。

以上で議案審議を終了した。

閉会挨拶

岩上副委員長より、緊急事態宣言が解除されたものの上半期が終了したが、今年度に技術広報委員会が取り組むべき課題について粛々と進めている。下半期においても委員の協力が必要であるためご協力を願う。との閉会の挨拶があった。

この議事録を証するため、委員長次に記名押印する。

2021年10月13日

一般社団法人
日本グラウンドマンホール工業会

技術広報委員会委員長 広滝 隆行

